



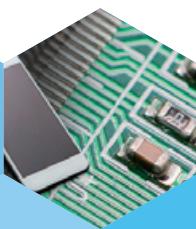
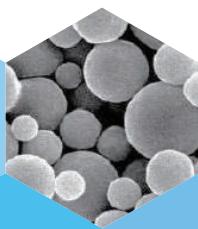
証券コード 5727

株主通信

第88期(2019年3月期)中間

(2018年4月1日~2018年9月30日)

 **東邦チタニウム株式会社**



株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より、当社に格別のご高配を賜わり、厚く御礼申し上げます。

第88期第2四半期（2018年4月1日～2018年9月30日）が終了しましたので、概況をご報告申し上げます。

当第2四半期の事業環境につきましては、金属チタンの需要については、主な最終需要である航空機の生産が堅調であったほか、一般工業用ではプレート式熱交換器向け等の需要があり、総じて安定的に推移しました。機能化学品事業は、需要が堅調に推移しました。

こうした状況のもと、当第2四半期の業績につきましては、売上高は前年同期比13.3%増の201億84百万円、営業利益は前年同期比31.7%増の25億39百万円となりました。また、経常

利益は前年同期比49.9%増の28億4百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比75.1%増の22億97百万円となりました。

配当につきましては、中間配当は見送り、期末配当を1株当たり10円とする予定です。

中期経営計画（2017～2019年度）も折り返し地点を迎えました。所期の成果実現に向けて、チャレンジ精神を忘れず取組みを推進してまいります。

当社グループの成長にご期待いただくとともに、皆様の変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

2018年12月

中期経営計画（2017～2019年度）の主な課題・施策

金属チタン事業	強靱な黒字体質の構築 ①スポンジ最適生産体制の確立 ②製造工程における技術革新 ③拡販に向けた取組み
機能化学品事業	市場の伸びを上回る成長の実現 ①当社の強みを生かした差別化戦略の推進 ②生産体制の拡充 ③拡販に向けた取組みの推進 ④将来の成長基盤確立に向けた次世代製品の探索と製品開発
技術開発	グループの将来を担う技術開発の加速



東邦チタニウム株式会社
代表取締役社長 西山佳宏

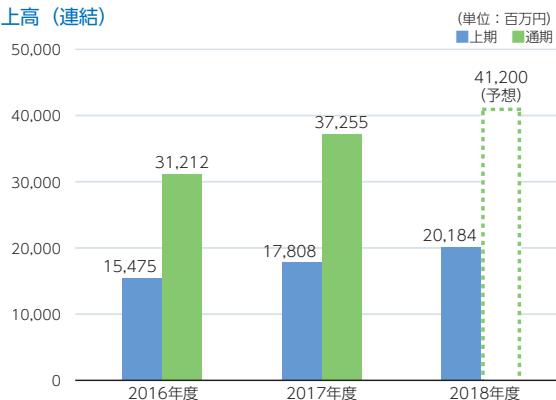
財務ハイライト

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
2018年度第2四半期実績	20,184	2,539	2,804	2,297
2018年度通期業績予想	41,200	5,100	5,000	4,100

※2018年度通期業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づくものであり、実際の業績は、様々な要因により予想と異なる結果となる可能性があります。

売上高 (連結)



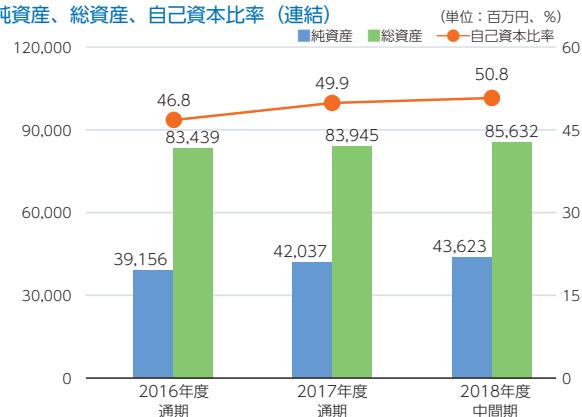
経常利益 (連結)



親会社株主に帰属する当期純利益 (連結)



純資産、総資産、自己資本比率 (連結)



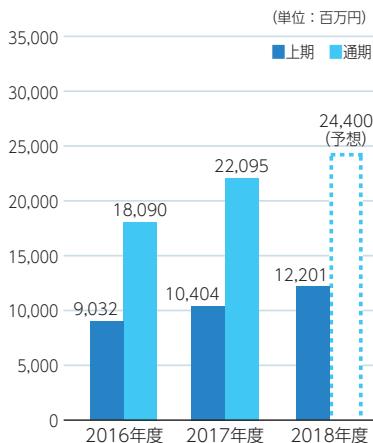
セグメント情報

金属チタン事業

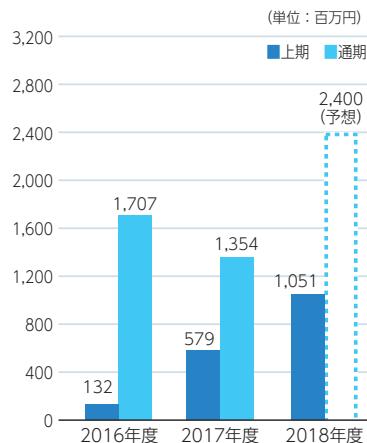
航空機向けスポンジ輸出は、一部顧客の操業トラブルの影響があったものの、前年同期比では増加しました。一般工業向け等の国内販売（インゴット、スポンジ）は、おおむね前年同期並みで推移しました。

サウジプロジェクトについては、原料（四塩化チタン）の供給開始が遅れており、新工場の商業生産開始は2019年初となる見通しです。

売上高 **122億01**百万円



営業利益 **10億51**百万円



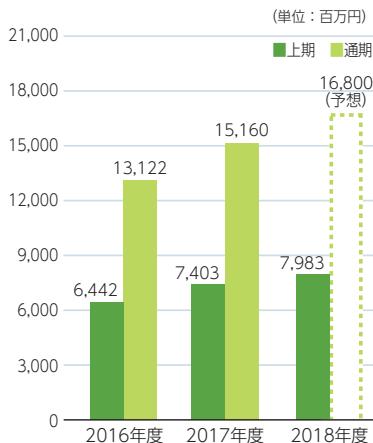
機能化学品事業

ポリプロピレン製造用触媒は前年同期比で増販となり、化学品（ニッケル粉、高純度酸化チタン等）の販売も総じて堅調に推移しました。

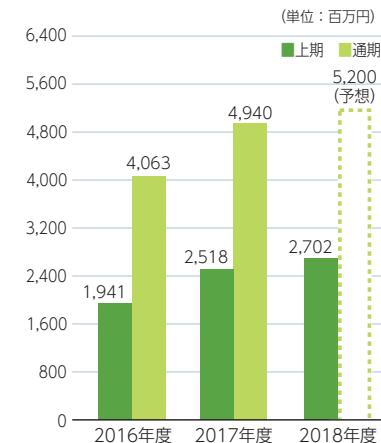
触媒事業では、現有設備での増産の取組みをするとともに、新工場建設に関するスタディを進めております。

化学品事業では、2017年12月に新設したニッケル粉第3工場（若松工場内）の操業は順調であり、上期は30t/月のフル生産を達成しました。

売上高 **79億83**百万円



営業利益 **27億02**百万円



※営業利益は全社費用控除前のものです。（2018年度の全社費用は、上期1,214百万円、通期予想2,500百万円です。）

四半期連結財務諸表（要旨）

（単位：百万円）

四半期連結貸借対照表（要約）

科目	当第2四半期	前期
	2018年9月30日	2018年3月31日
〈資産の部〉		
流動資産	36,102	33,769
固定資産	49,530	50,176
有形固定資産	42,630	43,015
無形固定資産	332	231
投資その他の資産	6,567	6,929
資産合計	85,632	83,945
〈負債の部〉		
流動負債	26,638	24,098
固定負債	15,371	17,810
負債合計	42,009	41,908
〈純資産の部〉		
株主資本	43,355	41,769
その他の包括利益累計額	142	141
非支配株主持分	125	125
純資産合計	43,623	42,037
負債純資産合計	85,632	83,945

四半期連結損益計算書（要約）

科目	当第2四半期	前第2四半期
	2018年4月1日～ 2018年9月30日	2017年4月1日～ 2017年9月30日
売上高	20,184	17,808
売上原価	14,862	13,173
売上総利益	5,321	4,634
販売費及び一般管理費	2,782	2,706
営業利益	2,539	1,928
営業外収益	390	76
営業外費用	125	134
経常利益	2,804	1,870
特別損失	10	1
税金等調整前四半期純利益	2,793	1,869
法人税、住民税及び事業税	289	201
法人税等調整額	205	354
法人税等合計	494	555
四半期純利益	2,299	1,313
非支配株主に帰属する四半期純利益	1	1
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,297	1,312

四半期連結キャッシュ・フロー計算書（要約）

科目	当第2四半期	前第2四半期
	2018年4月1日～ 2018年9月30日	2017年4月1日～ 2017年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,624	2,397
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,625	△1,275
財務活動によるキャッシュ・フロー	△925	△936
現金及び現金同等物に係る換算差額	11	14
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	1,085	198
現金及び現金同等物の期首残高	1,184	1,620
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,270	1,819

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

JX金属株式会社が当社親会社に 技術コラボレーション推進へ

JXTGホールディングス株式会社が所有していた当社株式35,859,400株(50.31%)は、2018年6月29日付けでJX金属株式会社に譲渡され、この結果JX金属株式会社が当社の大株主となりました。

JX金属株式会社は、2017-2019年度中期経営計画において「技術立脚型事業群としての電材加工事業の育成・強化」を掲げており、その一環として、当社の株式を取得し、直接の資本関係を持つことにより、JXTGグループにおける金属事業のダウンストリーム分野のより迅速かつ効果的な事業展開を図ることとなりました。今後は、当社固有技術である塩化技術、粉体の取扱いノウハウ等を活用したJX金属グループ内の技術コラボレーションを推進していきます。



(写真左)
7月31日に開催された記者会見（JX金属グループにおけるダウンストリーム事業の今後の展開について）の様子

(写真右)
記者会見で説明する当社高取副社長

還元・分離試験成功（サウジアラビア王国におけるスポンジチタン製造合併事業）

サウジアラビア王国ヤンブー工業団地において新会社が建設を進めてきたスポンジチタン新工場は、2017年5月に完工し、現在、商業生産開始に向けた準備を進めております。2018年8月には、実機による第1回の還元・分離試験に成功しました。

本工場は、隣接する酸化チタン工場から安定的に供給される四塩化チタンを原料としてスポンジチタンを生産する計画であり、当社の先進的な技術の供与と同国内の安価な電力代により、世界的に卓越したコスト競争力を有することになるものと期待されます。

合併会社の概要

◆名称	Advanced Metal Industries Cluster and Toho Titanium Metal Company Limited
◆本店所在地	ヤンブー（サウジアラビア）
◆事業内容	スポンジチタンの製造・販売
◆資本金	450,000,000サウジリヤル（120百万米ドル相当）
◆設立年月日	2016年2月29日
◆決算期	12月31日
◆出資比率	当社 35% Advanced Metal Industries Cluster Company Limited 65%

新工場の還元・分離テスト（第1回試験バッチ）



第5回高機能金属展に当社開発品などを出展（JX金属グループブース）

2018年12月5日～7日に幕張メッセで開催される第5回高機能金属展に、当社のチタン系粉、チタン多孔体（WEBTi®）、ニアネットシェイプ高機能チタン合金部材及び次世代リチウムイオン電池用固体電解質（リチウムランタンチタン酸化物）を出展します。高機能金属展は、日本最大の鉄鋼・非鉄・流通などの金属産業を網羅した展示会で、JX金属グループとして当社も共同出展しております。

チタン系粉

高品位なスポンジチタンや純チタン切粉を原料とし水素化脱水素法により高品質なチタン系粉を製造しています。



【用途】

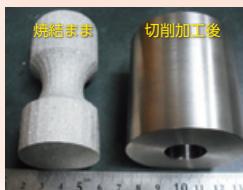
粉末冶金、スパッタリングターゲット、3Dプリンター原料、水素発生剤、酸素ゲッター、金属間化合物

チタン多孔体（WEBTi®）

当社が得意とする水素化脱水素チタン粉末を原料とし、様々な焼結条件等を探究することにより、高い空隙率と強度特性を兼ね備えたチタン多孔体を開発しました。多孔質性と共に耐食性などが要求される分野（電極材など）への適応研究を展開しています。



ニアネットシェイプ高機能チタン合金部材



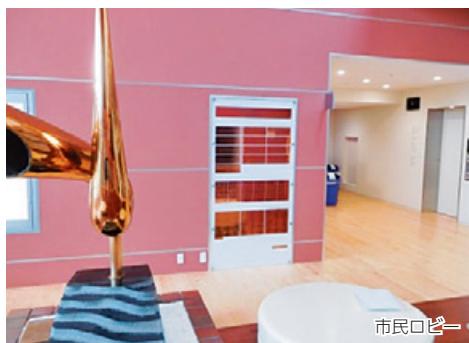
当社が得意とする水素化脱水素チタン粉末を原料とし、最終製品に近い形状のチタン合金部材を直接製造する技術を開発しています。この技術は、チタン合金の弱点の一つである切削加工負荷の低減に寄与します。

次世代リチウムイオン電池用固体電解質 —リチウムランタンチタン酸化物（LLTO）—



一般市販品の5倍以上という高いイオン伝導率を有するリチウムランタンチタン酸化物（LLTO）を開発しました。車載用や電力貯蔵用蓄電池として期待される次世代のリチウムイオン電池の固体電解質として有望な素材です。

茅ヶ崎市民文化会館リニューアルオープン 寄付者プレート制作



2017年3月から耐震補強・改修工事をしていた茅ヶ崎市民文化会館が、2018年10月1日からリニューアルオープンしました。会館内の市民ロビーには、当社が制作した寄付者の名前が刻まれたチタン製プレートが掲示されています。





経営理念

東邦チタニウムグループは
チタンと関連技術の限りない可能性を追求し
優れた製品とサービスを提供し続けることで
持続可能な社会の発展に貢献します

行動基本方針

私たちは、経営理念を実現するため次の3つの基本方針に基づき行動します。

1. 安全とコンプライアンスを最優先し、健全で公正な企業活動を行います。
2. 変革と創造を実践し、従業員と企業の持続的成長を果たします。
3. 顧客、地域社会、株主をはじめとする全てのステークホルダーと対話を進め、信頼・共生関係を築きます。

環境・品質方針

環境負荷の低減と高い品質を共に求めて
持続的な技術革新を進め
地域、地球に優しい環境づくりに努めるとともに
サプライチェーンの期待に応える
製品とサービスを安定的に提供します

◆ 環境・品質方針を実現するため
環境・品質マネジメントシステムを
事業プロセスの一部として維持し継続的に改善します

会社概要 (2018年9月30日現在)

- 社名 東邦チタニウム株式会社
- 本社所在地 神奈川県茅ヶ崎市茅ヶ崎三丁目3番5号
- 生産拠点 茅ヶ崎工場、若松工場、八幡工場、日立工場、黒部工場、岐阜工場 (東邦マテリアル株式会社)
- 資本金 119億63百万円
- 従業員数 (連結) 912名
- 主要な子会社 トーホーテック株式会社
東邦マテリアル株式会社
Toho Titanium America Co., Ltd.
Toho Titanium Europe Co., Ltd.

株主メモ

- 事業年度 4月1日から3月31日まで
- 定時株主総会 6月
- 基準日 定時株主総会権利行使株主 3月31日
期末配当金受領株主確定 3月31日
中間配当金受領株主確定 9月30日
- 単元株式数 100株
- 公告の方法 電子公告
- 上場証券取引所 東証第一部
- 株主名簿管理人 三井住友信託銀行株式会社
- 同連絡先 三井住友信託銀行株式会社証券代行部
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
フリーダイヤル 0120-782-031

IRカレンダー (2019年1月~6月) (予定)

1月	2月	3月	4月	5月	6月
1月下旬 ◎2019年3月期 第3四半期 決算発表		3月末 ◎期末配当基準日	4月下旬 ◎2019年3月期 決算発表		6月上旬 ◎第88期定時株主総会 招集ご通知発送 6月下旬 ◎第88期定時株主総会 開催